

# 事業実施報告

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 開催日   | 令和3年11月29日（月）～12月3日（金）  |      |    |
| 事業名   | 自然体験活動指導者（NEALコーディネーター）養成講習会  |      |    |
| 開催場所  | 国立岩手山青少年交流の家  | 参加人数 | 5名 |
| 対象    | 自然体験活動上級指導者（NEALインストラクター）資格を有する者  |      |    |
| 関係機関名 | 青木 康太朗 氏（國學院大學）、青山 鉄兵 氏（文教大学）、佐々木 豊志 氏（青森大学）<br>吉田 信一 氏（盛岡市立杜陵小学校）、吉松 梓 氏（新潟医療福祉大学） |      |    |

## 状況報告 (事業の内容・事業の成果について記載)

### 1. 事業内容

本事業の趣旨は、全国体験活動指導者認定委員会自然体験活動部会が定めたカリキュラムに沿った講義・実技を行うことを通して、自然体験活動に関する専門的知識及び技能を身に着けることで、自然体験活動事業を企画・運営・評価できるとともに、事業全体の安全管理を行うことができる指導者を養成することであった。

講義・実技では、カリキュラムに定められた「青少年教育における体験活動」「学校教育における体験活動」「自然体験活動における安全管理」「自然体験活動の指導」「対象者理解」「自然体験活動の特質」「自然体験活動の企画・運営」の7つのコマ（計27時間）を実施した。本事業で養成する自然体験活動総括指導者は事業全体を総括する役割を担うことになるため、事業中の事柄に限らず、関係団体との連携の在り方や事故時の事法的責任など、幅広い分野について学んだ。また、NEALリーダーやNEALインストラクターの指導を行う立場でもあるため、組織作りやマネジメントの方法、事業の反省会場面を想定したロールプレイングなど、他のスタッフを指導する実際についても学びを深めた。

参加者からも「今後事業を実施していく上で役立つことが多くあってよかった。」「インプットだけでなく、アウトプットの機会があったことで、講義内容を整理することができた」などの感想が聞かれた。

### 2. 事業の成果

- ・事業実施の半年前から講師の選定や講義内容の打ち合わせを行ったことで、講義内容について詳細まで検討することが可能となり、参加者にとってより分かりやすい講義を展開することができた。

- ・講義を一方的に聞くだけでなく、講義中にディスカッションの時間を意図的に多く設定したり、1日の最後によりふりかえりの時間を設けたことで、事業内容の理解がより深まった。

### 3. 事業の課題

- ・参加者が5名であり、少人数での開催となった。受講資格を持つ者の絶対数が少ないことや新型コロナウイルス感染症の影響で出張が控えられているという現状はあるものの、予算規模を考えれば当初定員に設定した15名程度の参加者が集まるよう、NEAL事務局からも広報を依頼するなどの策を講じる必要がある。

## 状況写真



青山先生の講義の様子



吉田先生の講義の様子



青木先生の講義の様子



吉松先生の講義の様子



佐々木先生の講義の様子



ディスカッションの様子